

# 臨床研究 「ブルガダ症候群に対するカテーテルアブレーション治療の心室細動抑制効果の検討」について

筑波大学附属病院 循環器内科では、標題の臨床研究を実施しております。  
本研究に関する問い合わせ、または研究への参加を希望しない場合は、担当者までご連絡をお願いいたします。本研究の概要は以下のとおりです。

## 【研究の意義・目的】

ブルガダ症候群とは 1990 年代に報告された症候群で、安静時に特徴的な心電図波形を示し、心室細動等の致死性不整脈を来す疾患群です。現在の治療では、心室細動が確認されている方では植込み型除細動器（ICD）を埋め込むことで突然死の予防を図りますが、突然死の家族歴や失神を有し、電気生理学的検査によって心室細動が誘発されるようなハイリスク群でも ICD の植込みが考慮されます。また抗不整脈薬による治療も試みられていますが、不整脈をコントロールできないような場合にはカテーテルを使用してその原因となり得る異常部位を焼灼して不整脈の抑制を試みる報告がなされるようになっております。これまでの報告ではカテーテル治療による急性期の不整脈抑制効果が報告されましたが、より長期的な経過を示した報告は少ないため、当院においてカテーテル治療を行った患者様の予後がどのように改善されているか検討したいと考えております。

この研究は、ブルガダ症候群に対するカテーテルアブレーション治療の心室細動抑制効果を明らかにするための研究です。

## 【研究対象】

2006 年 1 月から 2015 年 12 月までの間に、当院で治療をされたブルガダ症候群の患者さんの中で、心室細動、または失神が確認され、ICD 植え込みがなされた方が研究対象となります。

## 【研究機関名・研究者名】

この研究は筑波大学附属病院単施設での研究です。  
主導研究機関名・研究責任者：筑波大学附属病院

### 【この研究の資金源と利益相反について】

#### 【保有する個人情報に関する利用目的】

心室細動、または失神が確認され、ICD 植え込みがなされたブルガダ症候群の患者さんを研究対象として、過去の診療記録を用いて不整脈の特徴やアブレーション治療の成績を調査するものです。過去の診療記録から下記の項目を調査します。

#### 調査項目：

- 年齢、性別、受診日、自覚症状、既往歴、手術歴（心臓カテーテル治療を含む）、現疾患（糖尿病、高血圧、高脂血症、高尿酸血症、慢性腎不全、心不全の有無）
- 失神歴、心室細動の回数
- 治療内容（アブレーションに関するデータを含む）
- 12誘導心電図、ICDに記録されたデータ
- 治療後経過と転帰（心室細動の有無）

#### 【保有する個人情報保護の方法】

本研究では、対象患者さんの個人情報を保護するため、本研究に携わる研究者は割り当てられた登録番号で臨床データを識別します。

#### 【研究成果の公表について】

研究成果が学術目的のために学会や論文で公表されることがありますが、その場合も個人情報の秘密は厳重に守られ、第三者には個人の特特定ができないように配慮されます。

#### 【研究終了後の個人情報の取り扱いについて】

最終解析終了後にすべてのデータは廃棄されます。

#### 【保有する個人情報の開示手続】

あなたのデータが本研究に用いられているかどうかを知りたい場合は、いつでも下記問い合わせ窓口までご連絡ください。

データ使用の取り止めについて：あなたがデータ使用の取り止めを希望される場合には、いつでも下記問い合わせ窓口までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、あなたのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合があります。

**【保有する個人情報の問い合わせ窓口】**

担当医師： 筑波大学附属病院

医学医療系 臨床医学域 循環器内科

黒木健志

住所：〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

電話：029-853-3143

FAX：029-853-3143